

<防犯心理学の研究動向・話題提供>

仙台市市街地における 落書きの実態調査と消去実験

宮城学院女子大学 大橋智樹
ohashi@mgu.ac.jp

落書きに関する国内の研究動向

- 建築学研究における論文が多い
 - 落書き除去、対落書き性に関する開発(松井ら, 2002)
 - 上に関連した実態調査(松井ら, 2002など)
 - 都市景観の文脈での落書きの調査(小林, 2002, 2003; 近藤ら, 2002)
- 心理学研究は少ない
 - 大学内の机等における落書き(町田ら, 1982)
 - 絵本に対する幼児の落書き(山形, 1991)
- 都市社会学研究もある
 - “グラフィティ・ライター”へのインタビューを含むフィールドワーク研究(飯田ら, 2006)

本研究実施の背景

- 1年次学生向けの授業において、学生を15～20人程度のグループに分け、心理学に関わる実践的なテーマについて、データ収集・分析・まとめ・発表をおこなう授業の一環
- 本テーマは第1期生の学生と討議をしながら決定したもの。犯罪として落書きをとらえて糾弾する目的ではなく、落書きを通して心理学と社会の関わりを学ぶ
- その後、研究の継続を希望する有志学生で社会実験を計画・実施

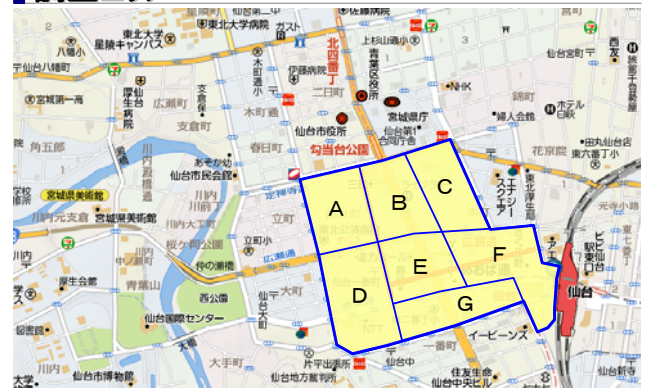
本研究の目的

- 研究1＝実態調査(2007年度):
 - ✓ 仙台市市街地における落書きの実態を把握し、落書き行為におよぶ心理をさぐる
 - ✓ 落書きに関する新聞記事を分析し、落書きに対する社会的反応の変化をさぐる
- 研究2＝社会実験(2008年度):
 - ✓ 仙台市市街地において、落書き消去実験・継続的観察をおこない、その結果から再発防止のヒントを得ること

研究1: 実態調査

- 調査時期: 2007年10月中旬～11月初旬
- 調査エリア: 仙台駅西側の市街地、約1Km四方。バス100円乗り放題区域(100円パッケ)とほぼ同じエリア
- 調査方法: 調査エリアを7つのブロックに分け、2～3名の学生が1つのエリアを担当し、そのエリア内の落書きすべてを記録する
 - 記録内容: 筆記具の種類・色、下地の種類・色・模様、シール

調査エリア



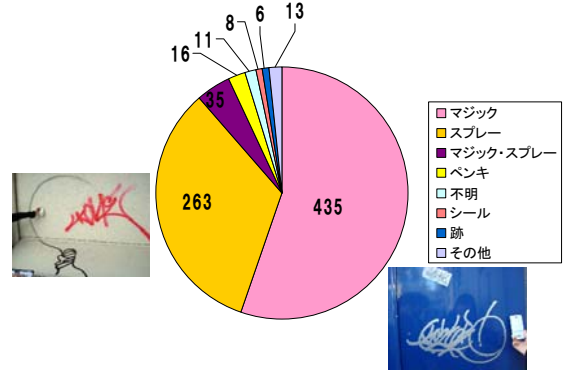
調査結果

■ 850カ所、998個の落書きを確認

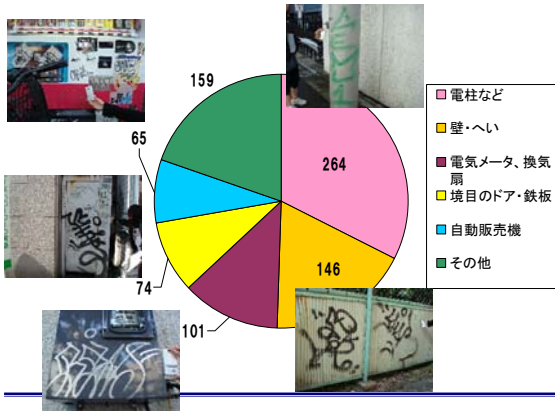


<http://www.mgu.ac.jp/~shinri/rakugaki/>

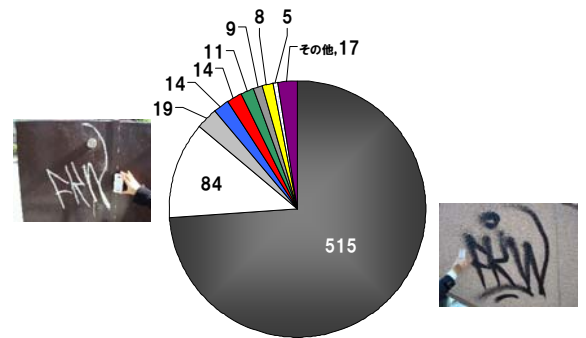
何で書かれているか？



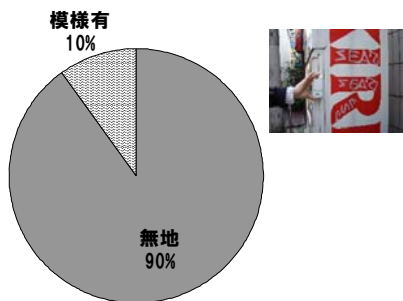
何に書かれているか？



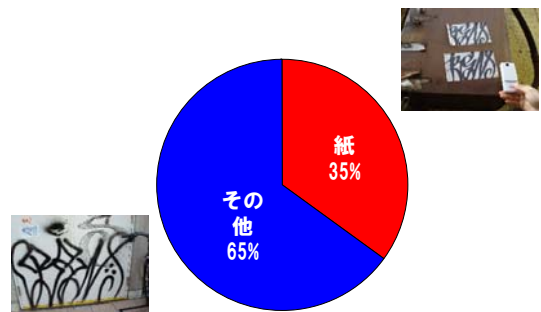
何色で書かれているか？



下地に模様はあるか？



シール様の割合は？



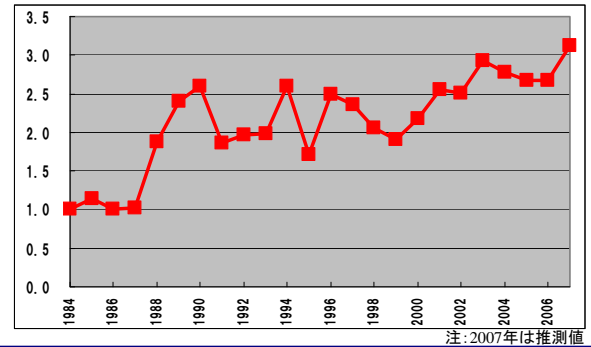
落書き行為の心理を推測すると・・・

- 見て欲しい、でも見づかりたくない
 - 多い場所：
 - ◆ 人通りの少ない狭い裏通り
 - ◆ 繁華街にはシールを貼る落書きが多い
 - 少ない場所：
 - ◆ 人通りの多い大きな表通り
 - ◆ 見通しの良い大型ビル付近
 - ◆ マンション等が多く店が少ない地域

13

研究1:新聞分析(1)

■ 新聞記事検索ヒット数(1984～2007.10)



14

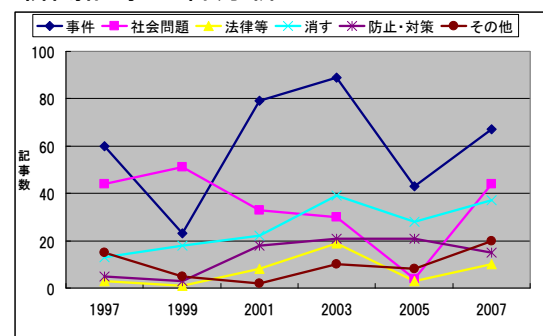
研究1:新聞分析(2)手続き

- 新聞記事内容分析
 - 対象:朝日新聞1997～2007年の奇数年6年分のすべての記事(1601記事)
 - 分類:「事件を報じる記事」「社会問題として扱う記事」「法律の制定に関する記事」など11種類に分類
 - 分析:犯罪としての落書きに関する記事のみを対象に詳細な内容分析(987記事)

15

研究1:新聞分析(2)結果

■ 新聞記事内容分析



16

新聞記事から読み取れる落書き

- 落書きに関する記事数は増加。2007年は1984年の3倍超
- 条例の制定、消去活動に関する記事は、2003年まで増加(仙台でも2003年に「仙台市落書きの防止に関する条例」が制定)
- 落書きを事件として扱う記事は、2003年をピークに減少。法律等の社会システムが落書き行為を減少させた?
- 2007年に大幅な変化が認められる。反発か?

17

研究2:消去をとまなう社会実験

- 消去活動:2008年10月21日
- 観察期間:2008年10月23日～2009年2月28日(月、木、土の週3回)
- 調査対象:計32地点
 - 一斉消去活動が行われた場所15地点
 - ◆ 本研究で消去した5地点
 - ◆ 他団体が消去(2008.12.3)した10地点(追加)
 - 放置or散発的消去場所17地点(追加)

18

消去活動

■対象地点の選定条件

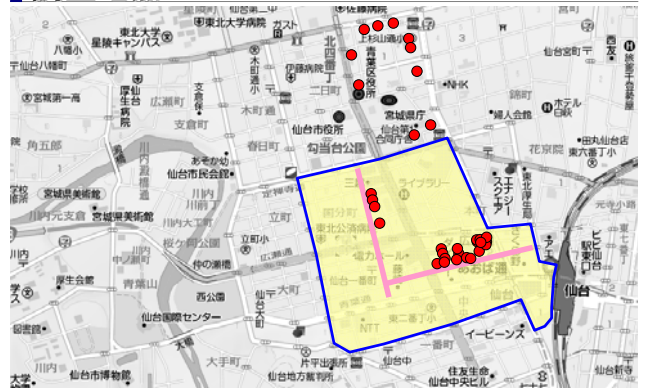
- 所有者の許可が得られること
- 落書き面が平滑で素人でもきれいに消去できること

■消去活動の具体

- 社団法人日本塗装工業会宮城県支部および仙台市青葉区役所の協力を得て、シール剥がし剤および消去スプレー(ケイ1)での消去後、背景色と同色で再塗装



調査地点



消去活動の様子

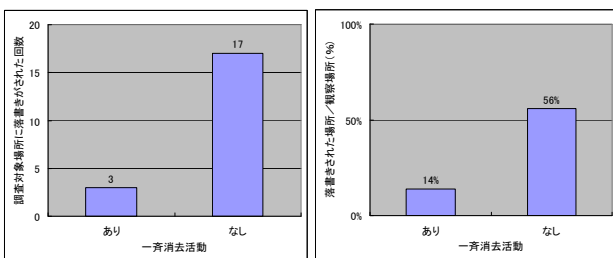


注:労働安全衛生法では屋外での塗装作業に防毒マスクの着用を義務づけていないが、念のため装着した

観察結果

調査地点	観察回数	落書きあり	落書きなし	消去済	未消去
1	1	0	1	0	1
2	1	0	1	0	1
3	1	0	1	0	1
4	1	0	1	0	1
5	1	0	1	0	1
6	1	0	1	0	1
7	1	0	1	0	1
8	1	0	1	0	1
9	1	0	1	0	1
10	1	0	1	0	1
11	1	0	1	0	1
12	1	0	1	0	1
13	1	0	1	0	1
14	1	0	1	0	1
15	1	0	1	0	1
16	1	0	1	0	1
17	1	0	1	0	1
18	1	0	1	0	1
19	1	0	1	0	1
20	1	0	1	0	1
21	1	0	1	0	1
22	1	0	1	0	1
23	1	0	1	0	1
24	1	0	1	0	1
25	1	0	1	0	1
26	1	0	1	0	1
27	1	0	1	0	1
28	1	0	1	0	1
29	1	0	1	0	1
30	1	0	1	0	1
31	1	0	1	0	1
32	1	0	1	0	1
33	1	0	1	0	1
34	1	0	1	0	1
35	1	0	1	0	1
36	1	0	1	0	1
37	1	0	1	0	1
38	1	0	1	0	1
39	1	0	1	0	1
40	1	0	1	0	1
41	1	0	1	0	1
42	1	0	1	0	1
43	1	0	1	0	1
44	1	0	1	0	1
45	1	0	1	0	1
46	1	0	1	0	1
47	1	0	1	0	1
48	1	0	1	0	1
49	1	0	1	0	1
50	1	0	1	0	1
51	1	0	1	0	1
52	1	0	1	0	1
53	1	0	1	0	1
54	1	0	1	0	1
55	1	0	1	0	1
56	1	0	1	0	1
57	1	0	1	0	1
58	1	0	1	0	1
59	1	0	1	0	1
60	1	0	1	0	1
61	1	0	1	0	1
62	1	0	1	0	1
63	1	0	1	0	1
64	1	0	1	0	1
65	1	0	1	0	1
66	1	0	1	0	1
67	1	0	1	0	1
68	1	0	1	0	1
69	1	0	1	0	1
70	1	0	1	0	1
71	1	0	1	0	1
72	1	0	1	0	1
73	1	0	1	0	1
74	1	0	1	0	1
75	1	0	1	0	1
76	1	0	1	0	1
77	1	0	1	0	1
78	1	0	1	0	1
79	1	0	1	0	1
80	1	0	1	0	1
81	1	0	1	0	1
82	1	0	1	0	1
83	1	0	1	0	1
84	1	0	1	0	1
85	1	0	1	0	1
86	1	0	1	0	1
87	1	0	1	0	1
88	1	0	1	0	1
89	1	0	1	0	1
90	1	0	1	0	1
91	1	0	1	0	1
92	1	0	1	0	1
93	1	0	1	0	1
94	1	0	1	0	1
95	1	0	1	0	1
96	1	0	1	0	1
97	1	0	1	0	1
98	1	0	1	0	1
99	1	0	1	0	1
100	1	0	1	0	1

観察結果のグラフ



落書き増加の回数

落書き増加の割合

再発防止へ提言できること

- 落書きの増加数(率):
一斉に、確実に、落書きを消去した場所<放置された場所
- 消去活動は無意味ではない
 - 一般に落書きを消すことは「いたちごっこ」であるように思われがち(ヒアリング調査でもこのような声が多い)
 - しかし、本研究からは、消去が一定の意味を持つことが示唆
- ただし、中途半端な消去には意味がない
 - 小さな犯罪を見逃ごすことが、大きな犯罪につながるという「割れ窓理論」(Kelling & Coles, 1996)。落書きの消去活動も同様。「少ないうちにきれいに消去すること」を意味する